海上安全だより No. 56　平成２６年３月

# 本年発生した船舶事故事例について

本年2月末時点で9隻の船舶事故が発生しており、船舶事故による死者・行方不明者が2名となっています。船舶事故の2つの事例について、それぞれの事故原因から事故防止のポイントを考えて見ましょう。

## ■ケース1　荒天で2隻の磯舟が転覆

【事故の概要】

ます釣り漁船（0．3トン、1名乗組み）及びプレジャーボート（0．3トン、1名乗組み）が午前10時頃に出港し、奥尻島沖で操業中に天候が急変し、午後1時～1時半頃に2隻とも転覆したものです。

漁船乗組員は行方不明となり、プレジャーボート乗組員は発見されましたが死亡が確認されました。

【当時の気象・海象】

天候　雪
北北西の風10m
波高2m
うねり3m

【発生位置】

【事故防止のポイント】

事故当日の気象情報は、海上強風警報が午前11時40分に、風雪・波浪注意報が午前4時19分に発表されています。

出港前に荒天が予想される場合には、出港を取り止める判断も必要です。

また、出港後において帰港を判断するための気象情報入手では、MICSメール配信サービスやMICS携帯サイトが有効です。

常に最新の気象情報を確認することが重要です。

## ■ケース2　燃料切れにより航行不能

【事故の概要】

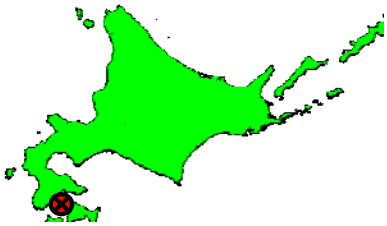
刺し網漁船（4トン、4名乗組み）が午後0時頃出港し、漁場向け航行中に津軽海峡で燃料切れとなり、午後2時頃に航行不能となったものです。

漁業無線により救助を呼びかけ、午後6時頃に付近を航行していた巡視船が応答し、救難所所属船により、無事救助されました。

【当時の気象・海象】

天候　晴れ
西北西の風7m
波高0．5m

【発生位置】



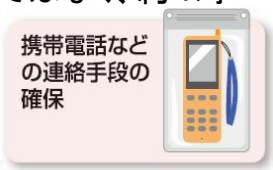
【事故防止のポイント】

出港前に残りの燃料をしっかりと確認していなかったことにより、燃料切れとなったものです。

運航の基本の一つである発航前点検を行うことで、機関故障や燃料切れ等の事故防止に有効です。

また、乗船者4名は携帯電話を携行していなかったため、緊急時の連絡手段が十分ではなく、約4時間漂流し危険な状態にありました。

万が一のために確実な連絡手段を確保しましょう。




お問い合わせは　第一管区海上保安本部交通部
電話　0134-27-0118（内線2615, 2616）
ＭＩＣＳホームページ　http://www.kaiho.mlit.go.jp/info/mics/

| 海難隻数及び海難による死者・行方不明者数（速報値） | |
|---|---|
| 2月 | 4隻、0人 |
| 平成26年累計 | 9隻、2人 |